

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201916		
法人名	医療法人社団 醫光会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	群馬県高崎市下佐野町752-1		
自己評価作成日	平成28年2月5日	評価結果市町村受理日	平成26年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日明るく楽しく安心して暮らせるように、笑顔と笑い声が弾むホームを心がけています。毎日の日課としてラジオ体操を行い、季節の歌本も多くそろえて合唱する習慣としています。玄関やホールには季節の生花を飾り、壁に飾るものは利用者様と一緒に季節を感じるものを手作りしています。レク用品も手作りしています。また散歩コースにも恵まれており、天気の良い日はなるべく外気にふれています。「美味しいものが食べたいな～」と言う利用者様の声に応え、かなりの頻度で手作りおやつを作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全利用者が日記を書くのが日課となっており、「洋服を買いたい」と書いた人は、家族の了解を得て、後日買い物に出掛けたり、「散歩に行きたい」という人は、事業所の周りを歩いたり、利用者の希望に沿って過ごせるよう支援している。また、健康で明るく過ごせるよう下肢筋力の低下を予防し、転倒の防止とトイレでの排泄が出来るよう、ラジオ体操と手足運動の他、今年度からスクワットも採り入れており、車椅子利用の方も参加できるよう支援している。運営においては、職員の提案で着物を着るイベントを実施し、車椅子利用者も上下別の着物を着るなど全利用者が参加して、お好みの着物を選び満足顔であったり、普段は背を丸めている人も背筋が伸びたり、心豊かな一時を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義・役割を念頭に置いた事業所理念をもとに、地域との関連性を盛り込み、管理者と職員がその理念を共有して実践に繋げている	「家庭的な生活を送れるよう安心と安全を提供します」を理念に掲げ、職員会議で安心・安全について話し合い、無理強いすることなく、自由で安心・安全な生活が送れるよう支援している。	事業所が目標と掲げた理念についての話し合いの機会を持ち、地域密着型サービスの意義を踏まえて理念について話し合われる機会づくりを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するピース佐野でのイベント参加、幼稚園児の訪問、地域の傾聴ボランティアの方々との交流、介護相談員の訪問による交流や、運営推進会議開催により、区長や民生委員を通して地域の方々との交流を図っている	園児が訪問の際には、幼稚園の庭に咲く花を摘んで事業所の花瓶に挿したり、歌や踊りを披露したりしている。敷地内にある併設施設との合同イベントに参加し、傾聴ボランティアとの交流を図っている。	地域住民の一員として、地域活動に参加すると共に、普段の暮らしのなかで地域の人達との交流が図られるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議により区長、民生委員、傾聴ボランティアの方々を通して地域の方々との交流が出来るようになっており、ケアピース介護フェアの開催により、高齢者の食事メニューやリハビリの方法などの発信をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、利用者や家族に出席していただき、利用者の状況報告や意見交換を行うと共に、各回ごとにテーマを決めてそれについて話し合い、意見を頂き、時には実技の方法を紹介して今後のサービス向上に活かしている。	会議は、区長、民生委員、傾聴ボランティア、市職員、安心センター職員、家族、利用者をもって構成し、行事報告、入居者の状況、事故報告、質疑応答を行っている。出席し易いように、年度当初に開催日とテーマ(「排泄について」「認知症について」等)を決めて行われている。	「目標達成計画」をふくめて一連の外部評価を会議の議題としてあげ、そこでの意見を事業所運営に活かされるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、市長寿社会課の担当の方をはじめ、地域の区長や民生委員、傾聴ボランティアの方を交えて、全ての取り組みを伝えながら、意見交換を実施している	ケアマネージャーが更新書類等を持参した際に事業所の状況を伝え、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関においては施錠は行わず、気軽に誰でも出入りしやすいように心掛けている。また、職員は拘束研修に参加し、身体だけでなく言葉による拘束もしないよう取り組んでいる。	法人が毎年行う身体拘束に関する研修を受講後職員に伝達し、「ちょっと待って」や「やめて」等の言葉による拘束を含め、身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会において、高齢者虐待防止関連法について学び、事業所内での虐待防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の研修が開催される際には参加し、学ぶ機会を持つよう努力している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等がある場合は、個々に十分な説明を行い、家族の不安や疑問点がないか確認し、理解、納得いただけるよう取り組んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人来訪時には、利用者も含め話し易い雰囲気作り努め、また玄関には苦情受付箱を設け、電話やFAXでも受けられるよう、玄関に案内を掲示している。	家族の面会時に最近の様子を伝え、希望や要望を聞いている。絵馬に願い事を書いたり、1日の出来事や希望を全利用者が日記に書いたりするなか、希望に添った散歩や買い物に出掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議において意見交換や提案を話し合い、日常の申し送り時にも話し合いをし、情報を共有して実践に勤めている	職員会議で職員の提案や希望を聞くなか、着物を着るイベントを実施している。イベントを実施するなかで、お好みの着物を選んでもらったり、車椅子利用者には上下別の着物で対応したり等職員の意見を活かしており、利用者も着物を着ることで表情や背筋が変わるなどの変化があらわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員に対し気を配り、勤務し易い環境作りを努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的に行われている研修や法人外での研修の参加内容について報告書を提出し、職員会議で意見する機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入し、グループホーム大会に参加して体験発表をしている。地域の同業者との交流の機会を持って、サービスの質の向上に反映させる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話やコミュニケーションを通して困っている事や不安に感じている事、要望や希望をくみ取り傾聴して、信頼関係を築けるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	運営推進会議で意見交換をしたり、家族が来苑した際、希望や不安、要望などないか積極的に声掛けをし、信頼関係を築けるよう努めている。また来苑できない家族には電話を通じてコミュニケーションを取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の思い、状況等を把握してよく傾聴し、まず1番に必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ家族の一員との考えで共に過ごし学び支え合う関係を大切にしている。人生の先輩であることを尊重し、昔話や生活の知恵など教えてもらい、互いに支え合える関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告したり、相談するとともに、家族が来苑時は本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関には鍵をかけずオープンにしている。気軽に来所して頂けるようにと玄関先などに季節の花や飾り付けをして明るい雰囲気作りを心がけている	近所の人や度々面会に訪れたり、数十年来利用している美容室に家族と通ったり、併設事業所のイベントに参加して交流したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内で利用者同士が関わりが持てるようにテーブルの配置を考え時々席替えをしたりして新たな関わりが持てるように支援している。利用者同士の関わりを橋渡しができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方などに対し、家族から様子を聞いたり、相談や支援に努めている。お会いできた時には声をかけ、最近の様子など伺って支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉による表現の難しい方には、毎日の生活の中で、ちょっとした異変の気づきを大切にして、見落とさないように努めている。日常の会話のなかにおいては、本人の希望を聞いたり、行動や言動の中から本人の思いや意向を察し把握することに努めている	全利用者が、日記を書くのを日課としている。日記に記載した要望を受けて、後日買い物に出かけたり、叶えることが難しい要望には思いを受けて気持ちが落ち着くよう支援している。言葉による意思表示が難しい人には、話しかけて反応をみて判断したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から要望や意見を聞き、これまでの暮らし、生活環境の把握に努め、職員が寄り添い馴染めるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報の共有を密にし、利用者一人一人の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、要望や意見を聞き、現状に即した個別介護計画を作る。状態の変化に応じてその都度本人、家族の意向等を確認しながら現状に即した介護計画を作成している	「ケアプランの実施・評価」を毎週行い、3ヶ月毎にアセスメントを行い、担当者会議を開き、家族の意見を聞き、ケアプランを作成している。身体状況の変化に伴い、随時の見直しを行っている。	ケース記録は、ケアプランの「サービス内容」に添って行われるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、ケアの実践・気づき等を個別に記録することで、職員間で情報を共有している。毎月のカンファレンス以外でも変化が生じた際にはその都度話し合い計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、通院介助、買い物支援等、必要に応じて柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接するピース佐野である行事への参加や、お向かいにある幼稚園から、定期的に来苑していただいたり、介護相談員の来訪などふれあいを大切にしている。また、傾聴ボランティアとの密な関係により暮らしを楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意見を尊重し適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医の定期的な廻診も実施している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診は、家族が対応している。協力医は月2回往診し、訪問看護師が毎週訪れ、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの職員が得た情報や気付きは訪問看護師やピース佐野の看護師に伝え相談し、家人に報告し適切な受診等が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーや相談員と連絡をとり情報交換や相談をおこない良い関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族と話し合いを行い、ホーム内で看取りを希望されるか事前に確認をし、重度化してしまった際でのホーム内での対応の仕方を相互理解する様にしている	現在重度化した利用者はいないが、契約時に「重度化・終末期対応指針」を説明し、「看取り体制」や「看取り介護について」の同意書を交換している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や講習会に参加して、事故発生時のリスクや対応策を常に学び直し、未然に事故を防ぐようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成され法人として、消防署立ち合いと自主訓練を含め年3回、昼夜・風水害を想定して避難訓練を行っている。運営推進委員会会議を通して近隣の方々にも協力を依頼している	消防署立会いの避難訓練を1回、夜間の想定と風水害の想定をした避難訓練を、それぞれ1回実施している。食糧や缶詰・飲料水の備蓄を行っている。	災害時には、自治会や近隣の人達の協力を得られるよう体制整備を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の誇りやプライバシーを損ねない様個人の気持ちを大切に声掛けや対応に注意を払っている。記録の書き方や個人情報取り扱いについても慎重に対応している	法人が行う年間研修計画に「人権と尊厳を支える介護」を毎年組み入れ、2回に分けて実施し、全職員が交代で受講している。そうしたなか、トイレの見守りは気づかれぬよう慎重に行う。排泄後に手や衣類の汚れがないかをさりげなく確認する。入浴時はバスタオルで身体を覆う等の支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や表情、行動表現からのサインを読み取り、本人の意志や希望が気兼ねなく言える雰囲気を作り自己決定ができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて本人の意見、希望を尊重し希望に添えるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの衣類を選んで頂いたり勧めたりしてお洒落ができるよう支援している。また、レクリエーションで着物を着て昔を思い出し気分転換を図ったり、家族と共に昔からの馴染みの美容院へ出かけるなどして、本人の希望に合わせたおしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ランチバイキングや手作りおやつなどで、季節の果物や食材を選び、利用者から好評のメニューを提供して喜んで頂いている。利用者と職員と一緒に食器片付けなどを行っている。	副食は、食材業者から購入し、昼は職員が調理し、夕食は温めて提供している。主食は利用者の希望を聞き、副食に合わせてパンや麺類を出している。利用者の希望を取り入れた外食行事を毎月1回行い、時には利用者の好みのものが食べられるランチバイキングを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回体重測定をし、栄養士の作成したバランスのとれた食事を提供している。食事や水分の摂取量は記録に残し、一人一人に応じた健康管理を支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。毎晩義歯と歯ブラシの除菌洗浄も行っている。口腔ケアの研修会に参加し、学んだことを参考にして取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重し排泄表のチェックをしながら、排泄習慣やパターンを理解・把握した上で、個々に添った支援を行っている。	失禁する人には、排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。下肢筋力の低下を予防し、転倒の防止とトイレでの排泄が出来るよう、ラジオ体操と手足運動の他、今年度からスクワットを取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立によってバランスのよい食事を摂っている。水分量を把握し、調整も行っている。また、毎日運動をして腸の働きを助けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合によって曜日等制限せず個々の希望に添って入浴して頂いている。また、入浴剤や季節湯(ゆず湯・菖蒲湯)施行し香りや雰囲気等も楽しんで頂けるよう工夫している	日曜日を除き、利用者の希望で毎日入浴できる体制をとり、2日続けて入る人もいる。入浴を嫌がる人には、「下着を替えましょう」との言葉かけを行い誘っている。また、ゆず湯や菖蒲湯で、香りや季節感を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり異なった生活習慣であったことを十分把握したうえで、状況に応じ利用者の希望やペースを考慮しながら、休息や安眠が出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の目的や用法、用量、副作用を理解し正しく服用できているか確認し支援している。また症状の変化にも職員間で把握し情報の共有を実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の生活歴を理解し、毎日変化があつて楽しめる様に支援している。四季の変化が伝わるように苑内に飾る花や壁に飾るものを工夫している。散歩や外出をしたりして毎日変化が伝わるよう気分転換等の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な会話の中から利用者の希望や要望を聞き安全を考慮したうえで楽しんでもらえるよう外出や散歩、買い物などを取り入れている。また、月に一回外出イベントを計画し季節の花見、果実狩り、初詣等少し足をのばして利用者が楽しんで生活できるよう支援している	散歩の他、利用者の希望する衣類や朝食の食材の買い物に利用者とは出かけている。年間の外出行事計画を立てて、月1回は季節を感じられる外出行事を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々、利用者、職員で外出することによって買い物や外食を通して一人一人が希望に応じて楽しく過ごせるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙を希望する時は、いつでもやり取りができる様支援している。またお正月の年賀状は出来るだけ本人の字で書いて頂き、家人へ気持ちが伝わるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール各所に季節の草花や利用者の作品、写真を飾って、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮したりしている。家族の方が面会に来られた際に安心されるように工夫している	玄関を入ると大きな花瓶に梅や椿の花が活けられ、花の香りが訪問者を出迎えてくれる。「春に思い出すこと」を題に、春を迎えるにあたり思い出す花の名前や「好きな人に会いたい」等利用者それぞれの思いや希望が書かれた習字が居間兼食堂に貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気の合った利用者同士で談話したり、ソファーに座ってテレビやビデオを観られるように配慮している。好きな時には自室で休めるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのダンス、鏡台、家族の写真や利用者の作品、絵画、人形、時計、誕生日カード等を好きな様に置いてあり、居心地良く過ごせ、個性のある居室作りを工夫している	それぞれに、家具や縫いぐるみ・猫に関する雑誌等を持ち込んでいる。誕生日のお祝いカードや折り紙・事業所のポーリング大会の優勝の賞状が飾られるなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部(廊下、食堂、浴室、トイレ等)で安全にそして自立した生活が送れる様に、問題があれば職員同士で話し合い、改善し工夫している		